



明治期にエゾシカはそんなに捕獲されていたのか？

山田伸一著「明治期北海道におけるシカの狩猟頭数を推測する素材」
(北海道博物館研究紀要7: 37-45, 2022)の紹介

松浦友紀子 森林総合研究所北海道支所/エゾシカ協会 koyummt@gmail.com

エゾシカが明治期に絶滅の危機に瀕したことは、シカに関わる方々にとっては周知の事柄だろう。

この一因と考えられているのが乱獲であり、シカの生息数が激減して禁猟になる直前の時期は「最多の年で13万頭、あるいは19万頭」が捕獲されたと、多くの論文や報告で引用されている。そのもととなる情報は、「野生動物分布等実態調査報告書—エゾシカ生態等調査報告書」(北海道生活環境部自然保護課 1987)の「表1 エゾシカ捕獲統計(I)」にある。この表には「頭数」と「皮数」の数値と、その合計数が載っている。これが「13万頭、あるいは19万頭」の根拠である(次ページのイラスト参照)。

現在、エゾシカの生息数は「大発生水準」にあり、「緊急減少措置」として最大限の捕獲数を目指した取り組みがされている。それでも年間捕獲数は10～13万頭程度であり、目標捕獲数には達していない。どうやったらもっとシカを捕獲できるかが、北海道の(そして日本全体の)悩みである。一方で、明治期にはこれに匹敵する、もしくはこれ以上に捕獲がされていたとされる。今でき得る全力を費やしてもそこまで捕獲できていないのに、ライフル銃も普及していなかった時代にどうやってそんなに捕獲していたのか、筆者も以前から疑問を感じてはいた。

そんな中、2022年に歴史学者の山田伸一氏(札幌学院大学教授)が、そもそも「エゾシカ生態等調査報告書 表1」の捕獲数は信用できない、と指摘する論文を発表された。まさかとは思ったが、氏の論文を読めば読むほど、エ

ゾシカ生態等調査報告書「表1」の^{しんびょう}信憑性のなさが際立ってくる。明治期の捕獲数を「極めて^{ずさん}杜撰な数字の操作からなる代物」と結論づけたこの論文を紹介したい。

「さしたる根拠もなく数値を2倍」

山田(2022)が指摘するエゾシカ生態等調査報告書「表1」の主な問題点は、①捕獲数の元となるデータの出典が明記されていない点、②頭数の算出方法に「乱暴な数値の加工」がある点、である。

山田(2022)は、「表1」の「皮数」は犬飼哲夫(1952)「北海道のシカとその興亡」からの孫引き*であると推察した。犬飼(1952)では、それ以前に行政機関がつくった「札幌県第一回勸業年報」「北海道庁統計書」「開拓使事業報告第三編」を引用して、明治期のシカ皮出荷数を整理している。「表1」でも、1879～1882年の値は「札幌県第一回勸業年報」、1905～1919年は「北海道庁統計書」とほぼ一致する。しかし1873～78年は、引用しているはずの「開拓使事業報告第三編」と一部値が異なっている。実は犬飼(1952)には引用に誤りがあり、1875～77年に翌年(1876～78年)の数値を書き込んでしまっているのだ。「表1」でもまさに同様の誤りが認められる。これを根拠に、山田(2022)は「表1」が原典をあたったものではなく、犬飼(1952)の孫引きである可能性が高い、としている。

では「表1」の「頭数」はどうか？「頭数」は「皮数」のほぼ2倍の値となっている。ほぼ、というのは、1973、78年は少し数値が異なるからである(1973年はおそらく計算ミス)。他の資料からも、この「頭数」に対応する数値が見



山田伸一「明治期北海道におけるシカの狩猟頭数を推測する素材」(北海道博物館研究紀要7: 37-45, 2022)は、同博物館ウェブサイトで公開されています。

CONTENTS

- p1 松浦友紀子「明治期にエゾシカはそんなに捕獲されていたのか？」
- p2 伊吾田宏正「速報 オジロワシの鉛中毒発生」
- p3 渡邊拓真「エゾシカの教材作成 レジン標本カンテツ編」
- p4 協会員だより
上野真由美「増えるアライグマにどう向き合うか？」
- p5 まんが「しっかり！シカくん」傑作選
- p6 伊吾田宏正「英国ハンティングスクールへの道」^⑩
- p7 伊藤英人「ワナ猟の世界」^⑦
- p8 青山則晴「料理の理」^④

出典は「開拓使事業報告第三編」？
ただし 1875-77 年は数値が 1 年ずつずれている

「頭数」+「皮数」？
1877 年以外は計算ミス？

「皮数」×2？
1873 年は計算ミス？

1878 年の数値は
出典不明

出典は「札幌県第
一回勸業年報」？

年	頭数	皮数(枚)	合計(頭)
1873	110,002	55,046	165,018
1874	116,996	58,498	175,474
1875	129,166	64,583	190,749
1876	87,864	43,932	131,739
1877	60,938	30,469	91,407
1878	69,496	30,000	94,496
1879	31,711	(空欄)	(空欄)
1880	27,817	(空欄)	(空欄)
1881	25,012	(空欄)	(空欄)
1882	15,429	(空欄)	(空欄)
1883	禁猟(～1900年)		

「野生動物分布等実態調査報告書 エゾシカ生態等調査報告書」(北海道生活環境部自然保護課 1987)収録の「表1 エゾシカ捕獲統計(Ⅰ)」(部分)

このイラストは、山田(2022)に基づいて作成しました。

つからなかったことから、山田(2022)は「表1」の「頭数」は、報告書作成者が「さしたる根拠もなく鹿皮の数値を2倍にすることにした」とみる。このような数値を「頭数」として扱うことももちろん問題だが、「表1」ではさらに「頭数」と「皮数」の合計値を「合計(頭)」と示しており、これが総捕獲数のようにも見える(ただし、6年のうち5年分は計算ミスなのか、合計値にもなっていない)。これが成り立つのは、「頭数」と「皮数」に重複がない場合のみであり、山田(2022)は「そんな判断ができる(略)数値をどこから得てきたものか、ぜひ知りたい」としている。

野生動物管理はデータが命

現在、エゾシカ保護管理に関する論文などで引用される「明治期には最多の年で13万頭、あるいは19万頭が捕獲されていた」という値は、「表1」の「頭数」と「合計(頭)」を出典としている。いずれも1875年の記録とされるもので、「頭数」が約13万、「合計(頭)」が約19万とされる。

山田(2022)が「極めて杜撰な数字の操作からなる」とする「表1」の値である。

では明治期に実際はどの程度のシカが捕獲されていたのか？ これに対する答えは、山田(2022)でも明らかにされていない。ただし、「開拓使事業報告」の物産表にある「鹿皮枚数」は、「実際の捕獲頭数よりは少なめだろう」とした上で、「目安の数値として使用するのが最も無難」と提案している。

山田(2022)は、明治期に捕獲したとされる頭数の出典が曖昧で、根拠がないことを厳しく指摘している。筆者は、この報告書を作成した当時の道庁担当者に話をうかがったが、内容についての詳細は不明、との回答であった。当時野生動物に精通した「生き字引」的な方がおり、その方が独自に情報を得ていた可能性がある、との情報もいただいた。

山田(2022)は、「本稿で見た以外の文献や文書がどこかにあったのではないかと思われるが(略)それはあり得まい」とし、「根拠が示されず、見つけることもできない数値を、仮にでも信じることはできない」と述べている。実際のところ、「頭数」が「皮数」の2倍になるという珍現象の根拠は、どこからも発見できないだろう。正確な情報に触れることができず、やむを得ず出した数値かもしれないが、このような曖昧で検証不能なデータを「事実」として扱うべきではない。

北海道の出した報告書とはいえ、出典も明記されていない数値を多くの研究者が信用してしまったことは、残念である。野生動物管理はデータが命のはず。信頼できるデータを用いることは絶対である。データの信憑性を十二分に確認することが重要であることを改めて認識した。

*孫引きとは、直接原典をあたらずに、他の本や論文に引用された文章をそのまま用いること。

速報 オジロワシの 鉛中毒発生

伊吾田宏正

今年2月11日、北海道胆振地方で、国の天然記念物であり環境省が絶滅危惧種に指定するオジロワシの鉛中毒死が発生しました。死亡したオジロワシの胃の中からは、鉛の散弾とシカの毛が検出され、血液には基準を超える濃度の鉛成分が含まれていたと報道され

ています。

北海道ではエゾシカ対策推進条例によって、エゾシカ捕獲の目的での鉛弾の所持が禁止されています。ただし、散弾の一粒一粒の直径が7mm未満のものは規制の対象外です。今回検出された散弾も7mm未満で、通常カモ類

エゾシカの教材作成 レジン標本 カンテツ編

写真と文 渡邊拓真

一般社団法人エゾシカ協会 研究員
watanabe@yezodeer.org

シカで作ったレバーパテにピンクペッパーを添えて、カリッと焼いたパンやクラッカーに塗って食べるともう絶品。赤ワインのおつまみにピッタリです。パテ以外にもレバニラや甘露煮にしても美味しい、そんなシカの肝臓ですが、実は寄生虫がいることをご存知でしょうか。

“肝”臓に寄生する“^{ひる}蛭”のような見た目からか、^{カンテツ}肝蛭と呼ばれ、肝臓の胆管（胆汁が通る管）に寄生する生き物です。大きさは約2～5cm程度と結構大きく、レバーに包丁を入れたり水に晒したりしていると、これがニールニール出てきてビックリすることがあります。

カンテツは、ヒトを含む全ての哺乳類に寄生し、シカに寄生しても顕著な症状が現れることは少ないのですが、人に寄生すると、腹痛や嘔吐などの症状がみられ、場合によっては^{すいえん}肝炎や胆管炎を引き起こします。ただし、シカの肝臓の中にある大きなカンテツ（成虫）をヒトが食べても、自分の肝臓に寄生されることはありません。リスクがあるのは、セリやクレスンといった野草に付着したカンテツの幼体（メタセルカリア）を食べてしまう場合です。また、まれな例ですが、カンテツが幼体の状態で寄生しているシカ

などの鳥獣またはクレー射撃に使われるものだったと思われます。

胃の中から鉛散弾とシカの毛が出てきたということは、鉛散弾が含まれるシカの残滓が放置され、それをオジロワシが食べてしまったことを示唆しています。しかし、鳥獣やクレー射撃用

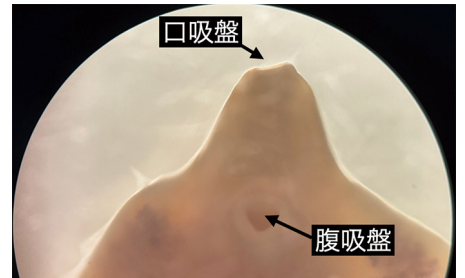
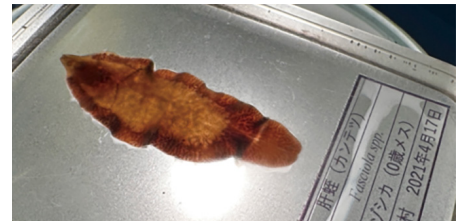
の散弾は殺傷力が小さく、通常のエゾシカ捕獲には使用されません。報道では、シカにとどめを刺す際に使用された可能性が指摘されています。

この背景には、弾の価格の高騰が影響しているのかもしれませんが、殺傷力が小さい散弾をシカ捕獲に使用するこ

のレバーを生で食べると、感染してしまうことがあります。シカの肉や内臓を調理する際は必ず加熱しましょう。

今回は、そんなカンテツのレジン標本にチャレンジしました。マダニのレジン製作（ニュースレター 51号参照）にも苦労しましたが、これまた難しく失敗の連続。封入物に水分が残っていると、変色や腐敗を引き起こすため、レジン封入前に必ず脱水しなければいけません。しかし、外殻や骨格を持たないカンテツは、乾燥させると生前の姿とかけ離れた見た目になってしまいます。エタノールを使って脱水処理を施すも、封入時に収縮や変色を起してしまいました。エタノール脱水処理後にグリセリンに浸すことで脱水処理しつつ、レジンも発熱量の少ないエキボシ樹脂を使うなど、様々な試行錯誤を得て、ようやく“リアル”な実物大カンテツのレジン標本を作成することができました。

このレジン標本を顕微鏡で覗くと、カンテツの口吸盤と腹吸盤をつぶさに観察できます。カンテツが属する吸虫綱には、二口虫（^{ジストマ}Distoma）の別名がありますが、実はこれ、腹吸盤を口だと思って「^{2つの口}Di stoma」と呼んだことに起因しています。



カンテツのレジン標本（上）と、その顕微鏡写真（下）。

とには、シカのアニマルウェルフェア上の問題があるにもかかわらず、7mm未満の散弾によるシカ捕獲の規制はありません。猛禽類の鉛中毒根絶のため、そしてシカのアニマルウェルフェア向上のため、関係機関による今後の対応が待たれます。



写真1 アライグマ。尻尾のシマシマ以外に、黒い鼻筋（タヌキは目の周りだけ）、白いヒゲ（タヌキは黒いので目立たない）、白い耳の縁（タヌキは黒い）、足元が白い（タヌキは黒い）特徴があります。環境省ウェブサイト「日本の外来種対策」より引用。

増えるアライグマに どう向き合うか？

文と写真 上野真由美

ueno-mayumi@hro.or.jp

北海道立総合研究機構

産業技術環境研究本部

エネルギー・環境・地質研究所

「おれが小さいころにはこんな生き物いなかったよな〜」

調査地で農業者と話しているとよく出てくる言葉です。尻尾がシマシマで、5本の指が目立つ足跡。北海道の自然史に登場してまだ40数年しか経っていない中型哺乳類、アライグマ（写真1）。ここでは、彼らの生態の一部を紹介しながら、鳥獣害対策のモデル動物としての期待について述べたいと思います。

アライグマの生態を知る ～中型哺乳類ならではの難しさ

アライグマの本来の生息地は北米ですが、テレビアニメで人気に火が付き、ペットや動物園の展示のために日本に持ち込まれました。案の定、逃げ出したり捨てられたりして野生化し、北海道では1979年に恵庭市内で飼育されていた10頭程度のアライグマが逃亡して定着したのが、最初の野生化だと言われています。分布域は急拡大し、1995年に24だった生息自治体数は、2022年には164（道内全市町村の92%）と、道内のどこにでもアライグマが生息

できることが証明されてしまいました（図1）。

アライグマは夜行性のため、なかなか人目につきません。同じ夜行性哺乳類でも、エゾシカなら夜間のスポットライト調査によって生息数の増減を評価できます。しかしアライグマは体格が小さく、草原性の動物でもないので、スポットライト法はほとんど役に立ちません。そこで現在は、捕獲データをアライグマ生息数の指標にしています。北海道の場合、わなかけ日数（捕獲に費やす努力量）と捕獲数を同時に収集し、100わな日あたりの捕獲数（Catch Per Unit Effort; CPUE）を計算して、地域ごとの生息密度を類推しています。

アライグマは木登りが上手で、壁伝いに畜舎や家屋に入り込んで住みつき、家畜の餌や屋根裏を荒らすことがあります（写真2）。「天井から物音がするから調べてほしい」と要請を受けて、駆除業者さんと一緒にとある民家を訪ねた時のこと。屋根裏を覗くと断熱材が引きずり出されて散乱し、糞だらけ。オシッコが染みこんだ天井板は腐って穴が空いていました。しかし肝心の動物は全く見当たりません。彼らは10cm程度の壁の隙間にも隠られるため、家を壊してもしない限り見つからないのです……。わなを掛けて捕まらなければもう、動物が自分で出ていってくれるのを待つしかありません。

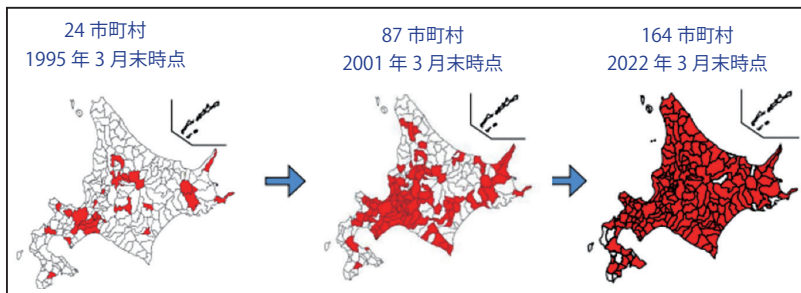


図1 アライグマ生息確認市町村の推移（1995年～2022年）。北海道HPより引用。

アライグマがもたらす諸問題 ～深刻な農業被害

アライグマが侵入することによって、北海道の自然生態系が変わってしまうことが懸念されています。アライグマがどのような在来種を捕食し、生息地をおびやかしているかについては少しずつ情報が蓄積されていますが、それが在来種の存続にどの程度影響しているのかは、まだ十分には分かっていません。

他方、アライグマの分布拡大に伴い、目に見えて深刻な影響が生じているのが農業被害です。トウモロコシ、メロン、スイカなどの農作物や、畜舎内の配合飼料や牛などが食害を受け、2021年度の被害額は1億4000万円を超えました。約1000万円だった1998年度の14倍です。換金作物への被害が主であることを考えると、農業者の落胆は計り知れません。被害に遭った農家から、翌年に「トウモロコシを育てるのをやめた」と言われた時には、私が申し訳ない気持ちになりました。

アライグマで成功事例が見えてくる？ 地域ぐるみの鳥獣害対策

諸問題を根本的に解決するためには、捕獲して数を減らす必要があります。ただ、これは地域ぐるみで進めていかないと息切れしてしまいます。

実はアライグマ捕獲を担っているのは、多くが農業者自身です。外来生物法に基づく防除実施計画に沿いさえすれば、狩猟免許は必要ありませんし、銃がなくても箱わなを自分の農地周辺に自由に置けます。そんな捕獲に対するハードルの低さが、農業者を他力本願に向かわせることなく、さらには捕獲対策と同じくらい重要な、農地への侵入を防止する手立て（防護）についても、自分事として進めていきやすい状況を生んでいるように感じます。エゾシカの被害対策では、時に農業者 vs 狩猟者（特に猟銃所有者）



写真2 不在家屋の壁から発見された生まれたてのアライグマたち。

の構図が生まれてしまいますが、アライグマ対策ではないことが、私にとって新鮮でした。

アライグマの行動圏はエゾシカよりも小さく、一部の個体を除けば、農地でよく見る500m四方の区画におさまる程度です。私たちが関わった北海道の捕獲事業や市町村の捕獲強化対策においても、数年でアライグマを減少させた例があります。被害地の

農業者自身が主体的に関わり、捕獲の効果が見えやすいアライグマ防除は、エゾシカ対策よりも当事者が手応えを感じやすいかもしれません。鳥獣害問題の解決手法として、アライグマ対策がロールモデルになるのではないかと、私は密かに期待しています。とはいえ、まだまだ楽観視できる状況ではなく、地道に調査と解析を繰り返す日々です。



参考文献

- えころぶ北海道 第57号 2019
<http://www.hro.or.jp/list/environmental/research/ies/develop/publication/Eco/Eco57.pdf>
 エネ環地研 View
<https://www.hro.or.jp/list/industrial/research/eeg/pr/eeg-view/pdf/eeg-view05.pdf>
 北海道HP. 令和3年度北海道におけるアライグマの生息等の状況
 アライグマ_R3生息状況.pdf (hokkaido.lg.jp). 2023年3月3日アクセス

ヒロヨン先生の元祖エゾシカまんが「しっかり！シカくん」では、「アライグマくん」が名脇役として活躍中。エゾシカ協会ウェブサイトでご覧いただけます。今号はエゾシカ協会ニューズレター第40号（2016年4月15日発行）収録の旧作を再掲しました。



英国 ハンティング スクールへの道 その18



一般社団法人エゾシカ協会副会長
酪農学園大学狩猟管理学研究室

伊吾田宏正 igoth@rakuno.ac.jp

DSC2 紀行①

今回は、英国シカ捕獲認証 (DSC) レベル 2 (DSC2) 取得のための講習会 (Intermediate Deer Course) の内容について報告しました。今回からいよいよ私が 2016 年に取得した DSC2 の内容について紹介します。7 回目の連載で速報はしたのですが、改めて詳しく報告したいと思います。

DSC2 は、DSC1 取得が受験資格となっていて、野外で実際にシカを適切に捕獲できるか現地審査者の審査を受けます。当時は登録をしてから 3 年以内に、3 頭のシカを、それぞれ別の機会に捕獲して、6 分野 27 の審査項目を全てクリアする必要がありました。前々回紹介しましたように、2019 年に DSC 制度の見直しがあり、審査の頭数が 3 頭から 1 頭に削減されました。私は現地協力者のお陰で、短期間のうちに 3 つの猟区で合計 3 頭以上を捕獲し、審査に合格することができました。

まず訪問したのはスコットランド中部のパーサチャー郡にある Talladh-a-Bheithe 猟区でした。面積は約 9000ha、森林とヒースがそれぞれ半々近くを占めています。ヒースとは、ツツジ科の灌木、またはそれが優占する荒野のことで、スコットランドの代表的な景観です。この私有猟区は、オランダ人の狩猟家によって所有され、約 20 名の会員 (シンジケートと言っていた) と専属の猟区管理者 1 名、そして退職した猟区管理者 3 名によってシカが管理されていま



スコットランド中部の Talladh-a-Bheithe 猟区の景観。
針葉樹林と湿地、ヒースの荒野が広がる。

した。年間の捕獲頭数は、アカシカ約 330 頭、ノロジカ十数頭とのことでした。

エジンバラ空港から英国狩猟協会の手配してくれたハイヤーで猟区のロッジに到着すると、猟区のオーナーのエイドリアン・ファン・ウェルさんと英国狩猟協会のニック・レーンさんが出迎えてくれました。本連載にたびたび登場してきたニックは DSC1 からの我々の先生で、エゾシカ協会と英国狩猟協会の協定の窓口になっています。私がここに滞在した 2016 年 11 月 14～16 日には、他に 50～60 代のオランダ人の狩猟者 3 名と現地の 20～30 代の狩猟者 4 名がいて、前者は猟区での狩猟を楽しみに、後者は DSC1 の試験を受けに滞在していました。ニックはこの猟区でその試験監督をすることが決まっており、そのついでに私の DSC2 の審査をアレンジしてくれていたのです。

猟区に到着したのが夜遅かったので、翌朝から行動開始です。まずは、猟区オーナーから射撃試験を受けました。イギリスでは日本のように厳格な射撃場の設置制度はなく、猟区内の適当な場所に標的と射撃ベンチが置かれているだけの簡易的なものでした。銃はオーナーの 30-06 口径のライフルを使用しました。イギリスでは、他の多くの国と同様、土地所有者に狩猟する権利がありますが、外国人でも、自治体や警察の許可なく、その場で狩猟を楽しむことができます。その条件としては、その土地所有者の書面または口頭の許可を得ることと、狩猟期間などの規則を守ることだけです。猟銃を借りるのにも手続きの必要はありません。

射撃試験では、100m の距離から直径 4 インチの円内に 3 発全て着弾させるという DSC1 の基準をクリアし、そのまま捕獲に向かいました。DSC2 取得のため、はるばるスコットランドまで来たのです。緊張に胸が高鳴りますが、失敗は許されません。(以下次号)

ワナ猟の世界

連載第27回

誘引式足くくりわな

伊藤英人

有限会社 渡部製作所

<https://watabeshiki-wana.com>

ito@watabeshiki-wana.com

シカ・イノシシ捕獲事業で、エサなどの誘引物を用いた足くくりわなが普及している。誘引物を併用するメリットは、食性の違いなどを利用して対象種を捕獲しやすくなる（錯誤捕獲を減らせる）こと、作業しやすい場所に誘導できること、獣道を読むなどの特殊技術がなくても獲れることである（写真1）。エサ資源の少ない場所での捕獲に威力を発揮する。一方、デメリットとしては、エサ管理のコストがかかる。また、噂レベルでは、「人工の味を覚えた獣を呼び集めてしまい被害拡大」「肉の味が悪化」といわれることがある。

小林式誘引捕獲法

研究機関によって、エサわなの仕掛け方が開発され、公開されている。近畿中国森林管理局による「小林式誘引捕獲法」の特徴は、くくりわなを石で囲んで足場を限定した上で、わなを中心として石の外側に環状にエサを撒く（写真2）。エサを食べるときに前脚を置く習性を利用している。



▲写真1 木に塗ったメスイノシシの尿に対するオスの反応。体に塗りつけ、樹皮ごと歯で削り取った跡が残る。うまくわなを置けば、発情期のオスを選択的に捕獲できるかもしれない。



▲写真2 小林式誘引捕獲法の模式図。

竹内式誘引捕獲法

静岡県森林・林業研究センターによる「竹内式誘引捕獲法」は、木の幹にエサを取り付け、根元に来たシカをわなで捕獲する。わなかけ前にエサを食べさせ、足の位置を確認しておく。

エサ併用のためのわな

もともと足くくりわなは獣道に置き、埋めて隠す設計で改良されてきた。そして、エサ併用という新しい使い方に対して研究開発が行なわれ、現場での捕獲試験が進められてきている。

今後の管理捕獲ではこうしたわなが主流になる可能性がある。

狩猟としてのエサわな

エサを使うか使わないかで、わな猟の主旨が大きく異なる。基本的に足くくりわなは、わなを認識させない状態で足をかける。一方、エサわなは、露骨な人工物に対する警戒心とエサの魅力との駆け引きで、動物の習性を読む狩猟技術はあまり介入できない。狩猟者の間では、エサわなはズルい、それにかかった獣はマヌケ、タヌキがよくかかるという印象がある。こうした状況で、管理捕獲の際にエサわなを指定されると、エサなし派のプライドが刺激される。慣れた土地ではベテランが優勢だが、大規模の効率的捕獲となると、エサわなが有利になるとみられる。こうなると、コテコテの猟友会よりも新規参入の認定業者のほうが動きやすい気がする。エサなし派は、ぜひとも、実力でエサわなを凌駕してほしい。

初心者にはエサなしがオススメ

エサわなで捕獲率が上がり、捕獲の喜びと止めさし・解体の機会が増えるのはいい。しかし、道を読まないデメリットが、エサにスレた後や生息密度が低下したあたりで露呈しないか不安である。ノルマのない狩猟では、エサを考える前に、獣道をよく見て、枝や石を気にしながらわなを置いてほしい。いま、効率が悪くて地味だが学びの多いスローハントを満喫するのは、ちょっと贅沢なぜいたくのかもしれない。

青山則靖 料理の理 ⑭

シュークルート

今回紹介するのは、シュークルートというフランスはアルザス地方の郷土料理です。もともとは、千切りにしたキャベツを乳酸発酵させた漬物を指しますが（ドイツ語だとザワークラウト）、塩漬け肉とベーコン・ソーセージ、さらにジャガイモ・人参などと一緒に煮込んだ料理もシュークルートと呼ばれます。

作例では、小さめのエゾシカの前脚を骨付きで使いました。このサイズの部位は、トリミングするとお肉が小さくなりすぎて料理法に迷うのですが、骨付きのままならご馳走感バツグンです。鍋のサイズに合わせて肩・腕・前スネの部分にカットしたら、重量の2%程度の塩を擦り込んで3～5日間、寝かせます。この下ごしらえで、旨味が凝縮して深い味わいになります。

肉は水から火にかけ、茹でこぼしてアクを抜き、水洗いして新しい水に替えて再度火にかけます。これで澄んだスープになります。お肉がホロホロと骨から外れるくらいまで、圧力鍋だと15～20分、常圧だとコトコトと1～2時間。ここで火を止め、いったん冷まします。固まった脂はお好みで取り除いてください。


食事の時間に合わせて根菜を加えて再加熱し、ジャガイモが軟らかくなったらソーセージ・ベーコン、そして主役のシュークルートを鍋に投入。全体が温まったら完成です。

お肉からの塩分で味が変わるので、食べる直前に塩で調味してください。作例では、無調整で丁度良く仕上がりました。マスタードをたっぷりつけて召し上がれ。白ワインとともに相性が良いですよ。



エゾシカ骨付き前脚 …… 2～3kg（小さめの個体）
 塩 …… 40～60g
 ジャガイモ …… 2個
 人参 …… 1本
 玉ネギ …… 1個
 ソーセージ …… 4本
 ベーコン …… 4枚
 シュークルート（ザワークラウト） …… 50g
 ※分量は試作時のもの。適宜調整ください。

Kitchen Support 青 supportao.exblog.jp

青ちゃんのエゾシカ料理講座 
 ロースステーキ編／絶品ロースト編／青椒肉絲編／万能水煮編／万能水煮和風アレンジ編／洋風アレンジ・スープカレー編／トマト煮編／ピラフ編



「料理の理」バックナンバー
<http://yezodeer.org/library/library.html>



1)

エゾシカの前脚を肩・腕・前スネに切り分け、重量の2%の塩を擦り込んで数日間寝かせます。



2)

骨付き肉を水から煮て茹でこぼし、水洗いします。



3)

鍋に水を張って骨付き肉を入れ、火にかけます。圧力鍋で15～20分、常圧だと1～2時間煮込みます。



4)

肉が骨からホロホロとほぐれるようになったら、一度冷まします。



5)

ジャガイモ・人参・玉ネギを加えて再び加熱。ジャガイモが煮えたらソーセージ・ベーコン・シュークルートを追加し、塩で調味して完成です。

一般社団法人エゾシカ協会
 ニュースレター第54号

発行日 2023年4月1日
 編集発行 一般社団法人エゾシカ協会
 会長 鈴木正嗣
 事務局長 松浦友紀子
 〒069-0864

北海道江別市大麻泉町1-19

電話 011-375-7899

MAIL info@yezodeer.org

URL http://yezodeer.org

© 2023 Yezo Deer Association, All rights reserved.